

2019 年度 JFA スポーツ救命ライセンス講習・スポーツ栄養研修会の開催報告

12月15日（日）青森県では初となる日本サッカー協会（JFA）スポーツ救命ライセンス講習会を青森県立中央病院でドクター28名を対象に開催しました。また、青森県スポーツドクターの会の協力のもと石川三知先生（Office LAC-U）をお招きしスポーツ栄養の研修会も同時に行いました。この講習会は、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーが資格更新のために保有しなければならないBLS（一次救命処置）資格取得のための講習会として認定されています。突然死・心肺蘇生・脳振盪・熱中症の講義などを行い、実技は古家信介先生（大阪市立総合医療センター）を中心としたインストラクターの指導のもと心肺蘇生の中でも最も重要な胸骨圧迫とAEDの使い方を学習しました。またバックボードによる全身固定・搬送法についても学びました。本講習会の合格者には修了証（3年間有効のライセンス証）が渡されました。

記 山本 祐司（弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座）



【参加者からのコメント】

今回初めて受講させていただきました。講義内容は熱中症や脳振盪など頻度が高い疾患から、心臓振盪など緊急度の高い疾患まで幅広く、動画などで解説し具体的でわかりやすく、大変勉強になりました。スムーズに心肺蘇生を行うためには、心肺蘇生について共通理解を持っている人が多くいる事が重要であると感じました。また、頸髄損傷や脳振盪などが疑われる傷病者をバックボードで安全に固定し搬送する方法は今回初めて体験しました。ONE TEAMで協力して行う必要があるためチームの中で複数人が共通理解を持っていないと難しいなと感じました。スポーツに関わるたくさんの方々がこの講習会に参加して頂き、選手の健康や命を守る環境が整っていくことを期待しております。

新戸部 陽士郎（三沢市立市民病院整形外科）